

日本工学院専門学校	開講年度	2020年度	科目名	施工管理技術者資格対策
科目基礎情報				
開設学科	建築学科	コース名		開設期 前期
対象年次	2年次	科目区分	選択	時間数 60時間
単位数	4単位			授業形態 講義
教科書/教材	2級建築施工管理技士学科テキスト(2020年度)、2級建築施工管理技術検定過去6回試験問題			
担当教員情報				
担当教員	赤石 辰夫、大澤 公仁		実務経験の有無・職種	有・工事管理・工事監理 一級施工管理技士
学習目的				
この科目では、建設施工者の国家資格である2級建築施工管理技士試験のうち、学科の分野について演習を中心に学習を行い、本年度の試験で合格することを目的とする。そのためには、試験問題を建築構造分野・施工分野・管理分野などで工事技術の項目を、建築計画分野・各種法規分野などで建築知識や法律・規制現などに分けて講義を行い、小テストを行うことによって理解の到達度を確保して弱点の強化を図る。				
到達目標				
2級建築施工管理技士試験と同等レベルの問題について70%以上の正解率を上げられることを目標とし、それと同等の知識の修得を目指す。そのためには、過去10年以上の試験問題について精査し幅広い内容の中から定番となる問題を中心に理解し、余裕のある項目については各自が判断して難問にも挑戦し高得点につながるようにレベルアップを図る。また、四択問題の形式に慣れて試験時間の配分なども考慮して受験するテクニックも身に付ける。				
教育方法等				
授業概要	教科書を用いた講義により通常授業で学んだことから試験問題のポイントについて学び直す。また、過去問題を用いた演習と解説を行うことで、2級建築施工管理技士同等の実践的知識の習得を行う。同時に模擬試験を行い、実践力を養う。			
注意点	これまで一般構造・建築材料・建築生産・計画・環境工学・法規などとして別れて学んだことを、建築の総合的な知識として学び直すこと。過去6回分の問題集は主に自宅学習で繰り返し解き、模擬試験で力を確認すること。また、夏期休暇中には復習を怠らないこと。			
評価方法	種別	割合	備考	
	試験・課題	60%	試験と課題を総合的に評価する	
	小テスト	30%	授業内容の理解度を確保するために実施する	
	平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する	
授業計画（1回～15回）				
回	授業内容	各回の到達目標		
1回	地盤・基礎構造、木構造	地盤と基礎形式、在来軸組み工法、木材の接合方法		
2回	RC構造、S構造	鉄筋の役割、鉄骨の接合		
3回	換気、伝熱・結露	自然換気と機械換気、伝熱と断熱、結露の防止		
4回	構造力学	反力・トラスの求め方、応力図		
5回	日照・日射	建築の日蔭、直達日射と天空日射		
6回	荷重・外力	構造設計における荷重		
7回	採光・照明、音響	屋光の照度、採光、照明方式		
8回	建築材料	躯体材料と仕上げ材料		
9回	総合演習	実力確認、受験申し込み手続き		
10回	音響、色彩	音の性質と単位、遮音と吸音、色彩の効果		
11回	仮設工事、土工事、基礎工事	建築測量・仮囲い・足場、根切り・排水・山留、砂利地業・杭工事		
12回	建築基準法、建設業法	用語の規定、建設業の許可、請負契約		
13回	RC造工事、S造工事	型枠工事、鉄筋工事、コンクリート工事		
14回	模擬試験	建設業法の補足、実力確認		
15回	総合演習	模擬試験結果、解説		
授業計画（16回～30回）				
回	授業内容	各回の到達目標		
16回	仕上げ工事	防水工事、左官工事、ガラス・建具工事、塗装工事		
17回	労働基準法	労働基準法、労働安全衛生法		
18回	施工計画、工程計画	事前調査、書類と届け出、工程表		
19回	その他の法規	騒音・振動規制法、産業廃棄物、建設リサイクル法		
20回	品質管理、安全管理	品質計画とQC、材料の保管、作業主任者の業務		
21回	過去問題演習1、解説	過去問題を模擬形式で実施、解説		
22回	過去問題演習2、解説	過去問題を模擬形式で実施、解説		
23回	過去問題演習3、解説	過去問題を模擬形式で実施、解説		
24回	過去問題演習4、解説	過去問題を模擬形式で実施、解説		
25回	過去問題演習5、解説	過去問題を模擬形式で実施、解説		
26回	過去問題演習6、解説	過去問題を模擬形式で実施、解説		
27回	過去問題演習7、解説	過去問題を模擬形式で実施、解説		
28回	過去問題演習8、解説	過去問題を模擬形式で実施、解説		
29回	模擬試験	模擬試験の実施、解説		
30回	総合演習	本試験の解説		